

角川武蔵野ミュージアム 360度体感型デジタル劇場

ゴッホの絵画に囲まれ ゴッホを体感できるイマーシブミュージアム

Creative Direction: Gianfranco Iannuzzi

Created by : Gianfranco Iannuzzi – Renato Gatto – Massimiliano Siccardi

KCM Editing: Rino Tagliaferro

Production: Culturespaces Digital®

©Kadokawa Culture Museum

埼玉・東所沢にある角川武蔵野ミュージアムは、1,100㎡の巨大空間をプロジェクションマッピング技術を使い映像で演出する。昨年10月に『浮世絵劇場 from Paris』を創り出した。そして、6月から企画第2弾『ファン・ゴッホー僕には世界がこう見える』を11月27日まで開催している。この映像空間演出の考えを聞いた。(レポート: 吉井 勇・本誌編集部)

360度の体感デジタルアート展

角川武蔵野ミュージアム1階のグランドギャラリーに入ると、正面、左右、背面、そして床面からもゴッホの作品群が飛び込んでくる。

角川武蔵野ミュージアム プロデューサー・今井久氏は「ゴッホの波乱万丈な人生と重ねながら、作品を描くゴッホが見た世界を体感し



角川武蔵野ミュージアム プロデューサーの今井久氏

ていただくデジタルアート展という新しい鑑賞の提案です」と説明する。ゴッホの力強い筆致や大胆な色彩を、360度空間の映像演出と音楽でイマーシブな体験を提供するものだ。

「感情的で混乱している、表現者としてのゴッホの内面の世界を感じてもらい、誰も知らなかったゴッホに気付いていただきます。自由に歩き回り、立ち止まり、時にハンモックに揺られながら、鑑賞の仕方は自由です。これが角川武蔵野ミュージアムの『デジタルアート』の世界観です」(今井氏)

世界的なイマーシブアーティストが参加

では、デジタルアートとしての「僕には世界がこう見える」のコンセプトを表現する映像作品はどう作られたのか。

今井氏は「360度体感型でのデジタルアート展示を前提にして、テーマを考えて構成と演出に取り組んできました。映像構成は、イマーシブアート・インスタレーションの先駆者であるジャンフランコ・イアヌツツィ氏です。彼は30年に